

第4章

個性豊かな人づくりと文化の高揚

1 学校教育

現状と課題

今日、いじめや不登校の問題、子どもたちの規範意識の低下や体験不足、凶悪する青少年の犯罪、家庭や地域社会の教育力の低下等が指摘されるとともに、国際化、情報化、科学技術の発展等、社会の変化にともなって21世紀を展望した我が国の教育が問われている。少子化にともない本町の児童生徒数は減少の傾向にあり、子どもたちにかかる願いは大きく責任は重いものがある。

これからの学校教育においては、変化の激しい社会において、生きる力の育成が不可欠である。生きる力とは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力・自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力などのことである。これからの社会においては、このような生きる力を学校・家庭・地域社会の連携のもとに育成するとともに、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚責任を持った人間の育成が重要な課題である。さらに、情報化社会は急速に進展するものと思われるので、高度情報化社会に対応する学校教育のあり方も重要な課題である。

学校施設の状況

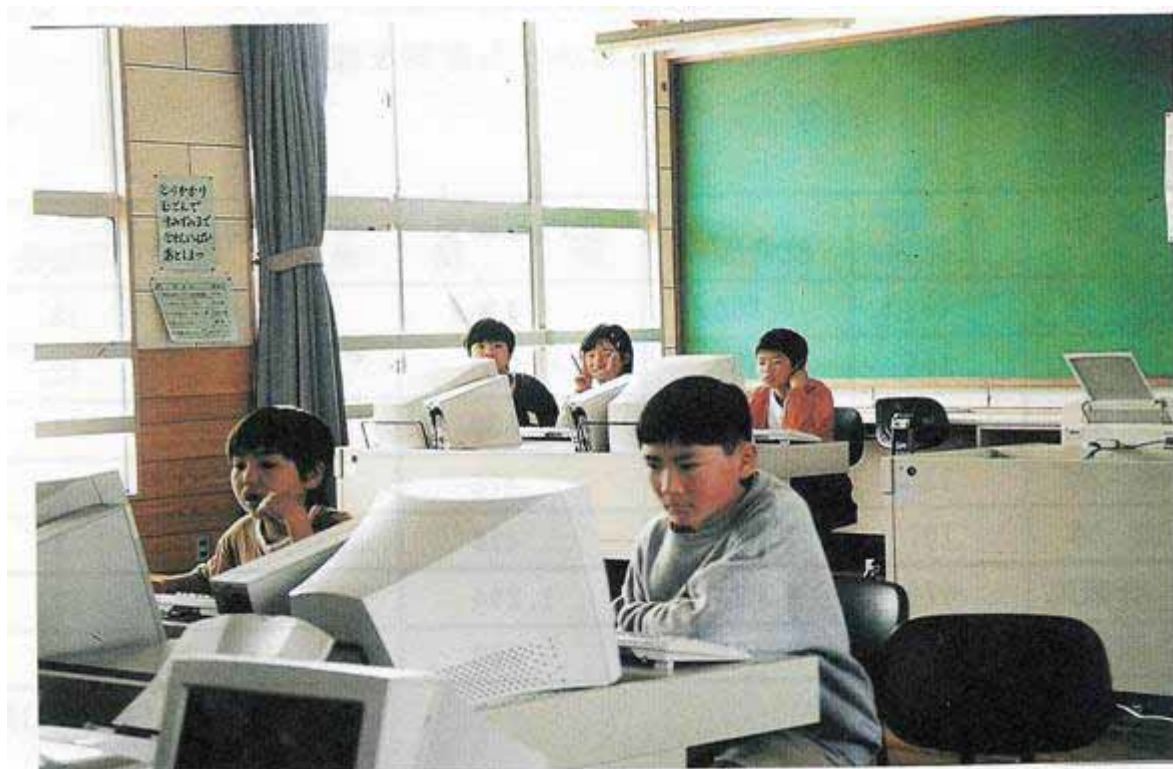
| 区分 | 児童生徒数 | 校舎面積 | 屋内運動場面積 | 屋外運動場面積 | 学級数 | |
|-----|-------|------|----------------------|--------------------|-----------------------|----|
| 小学校 | 川南 | 499人 | 4,960 m ² | 726 m ² | 19,013 m ² | 18 |
| | 通山 | 264 | 2,997 | 450 | 11,322 | 12 |
| | 東 | 146 | 2,299 | 532 | 13,772 | 7 |
| | 多賀 | 135 | 1,960 | 476 | 11,265 | 6 |
| | 山本 | 107 | 1,942 | 476 | 10,587 | 7 |
| 中学校 | 唐瀬原 | 470 | 4,083 | 1,294 | 28,654 | 13 |
| | 国光原 | 296 | 3,183 | 700 | 20,147 | 9 |

平成12.5.1現在

児童・生徒数の推移

| 区 分 | | 平成 6年度 | 平成 7年度 | 平成 8年度 | 平成 9年度 | 平成 10年度 | 平成 11年度 | 平成 12年度 |
|-----|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 児童数 | 1,569 | 1,490 | 1,420 | 1,382 | 1,285 | 1,198 | 1,151 |
| | 学級数 | 53 | 52 | 52 | 52 | 51 | 49 | 50 |
| 中学校 | 生徒数 | 861 | 825 | 819 | 806 | 815 | 789 | 766 |
| | 学級数 | 25 | 24 | 23 | 23 | 23 | 23 | 22 |
| 計 | 児童・生徒数 | 2,430 | 2,315 | 2,239 | 2,188 | 2,100 | 1,987 | 1,917 |
| | 学級数 | 78 | 76 | 75 | 75 | 74 | 72 | 72 |

学校基本調査



施策の内容

(1) 教育内容の充実

学校週5日制の実施に伴う教育内容、指導の改善充実、基本的な学力の向上を図る。

創意工夫を生かし、特色ある教育・学校づくり・郷土教育を推進する。

個性を生かし、自己学習力を育てて学力を高め、豊かな創造力を伸ばす。

多様なマルチメディアを生かした教育の充実を図る。

心の教育の充実と児童生徒の健全育成に努める。

健康安全・体力の向上に努める。

教職員の資質の向上及び教育相談等の充実により教育課題の解決を図る。

(2) 教育施設、環境の整備充実

校舎、屋内運動場等をはじめとした教育施設の計画的な整備を推進する。

コンピュータ教育に伴い、めまぐるしく進化する機器の充実、更新を図る。

(3) 地域との体制の確立

学校、家庭、地域社会の連携強化による多様な教育力の活用を図り、地域ぐるみの支援体制づくりに努める。

児童生徒数見込み

単位：人、級

| 区 分 | | 平成 13年度 | 平成 14年度 | 平成 15年度 | 平成 16年度 | 平成 17年度 |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 小学校 | 児童数 | 1,162 | 1,112 | 1,112 | 1,105 | 1,107 |
| | 学級数 | 50 | 47 | 46 | 46 | 46 |
| 中学校 | 生徒数 | 680 | 645 | 599 | 577 | 551 |
| | 学級数 | 22 | 22 | 20 | 20 | 19 |
| 計 | 児童・生徒数 | 1,842 | 1,757 | 1,711 | 1,682 | 1,658 |
| | 学級数 | 72 | 69 | 66 | 66 | 65 |

1 生涯学習の推進

現状と課題

本格的な高齢化社会の到来を目前にし、人々のゆとり、生きがい、自己実現などへの関心が高まっている。このため、生涯を通じて多面的な能力を開花させる生涯学習を支援する基盤づくりが一段と重要となっている。

今後より一層、町民がいつでも、どこでも、だれでも学習できるよう、教育環境の整備、人材の育成に努めるとともに、一人ひとりの自主的な学習意欲を喚起しつつ、ライフステージやテーマに応じたきめ細かい学習プログラムを充実することが必要である。

施策の内容

(1) 推進体制の整備

生涯学習推進の充実

町民の価値観やニーズの多様化に対応し、一人ひとりの自発的学習意欲の喚起を図るとともに、地域社会への実情に応じて生涯学習を推進する。

社会教育関係団体の育成

青年・女性団体の魅力ある組織づくりと、活動の支援学習グループやボランティア団体に対しては、自主性、自発性を尊重し、側面的な支援に努める。

指導者の育成

社会教育にかかわる団体や学習活動の指導者リーダーの育成に努める。

(2) 学習機会の拡充

青少年教育の推進

町青少年健全育成協議会を中心に、関係団体、学校、家庭の連携を強化し、活動の充実を図る。

家庭教育の推進

学校週5日制の実施に伴い、家庭や地域における教育の重要性が増してくるため、学習機会の拡充や相談体制の整備に努める。

女性教育の充実

地域における女性の学習機会の拡充と生涯学習への意欲の高揚を図り、女性活動のリーダーの養成と団体の育成に努める。

青・壮年教育の充実

職業を通して社会の連帯意識を高め、社会人の中堅としての役割を果たし、地域活動を推進するリーダーを育成する。

高齢者教育の充実

高齢者が生きがいのある生活を指向し、豊かな人生を送り、しかも地域社会づくりにも積極的に参加できるよう学習機会の拡充、指導者の養成、学習内容の充実を図る。

P T A 活動の推進

児童生徒の健全育成を図る成人教育団体として、P T A 活動の目的、意義の理解を深め、家庭及び地域における社会教育の振興を図る。

公民館活動の推進

町民の人間的な信頼感や地域連帯意識を高めて、地域住民の積極的な参加と協力を基盤に事業の展開を図り、生涯学習時代にふさわしい地域づくり、及び生涯学習推進としての公民館活動を進める。

2 社会体育

現状と課題

生涯スポーツの気運の高まりと共に、個々のライフステージに応じたスポーツレクリエーション活動が、商業化されたフィットネススタジオ、医療保険による高齢化社会のために始められたスポーツ教室等、複雑かつ多種目に渡り、人々のスポーツ関心を違った表現で展開される傾向がさらに強くなっている。

また、地域における生涯スポーツ活動は、地域住民の自主性、自発性に基づいて、健康の保持増進・仲間づくり地域づくりとして、より充実をとげてきた。

今後、スポーツ指導者並びに健康アドバイザー等、人材育成を進めつつ既存の指導者とともに組織をつくり、社会体育の施策をより広い視野での展開が必要である。

あわせて、住民が気軽に使える運動広場等、生涯を通して各年代におけるスポーツレクリエーション活動を支え、かつ人的交流を深める場の提供に努める必要がある。

施策の内容

生涯各年代での健康教育を重視し、生涯スポーツプログラムの開発と普及促進、あわせて、学校スポーツ活動中心からスポーツクラブを中心とした地域スポーツクラブの組織編成に着手しなければならない時期にある。そのためにも、指導者の養成と資質の向上に努める。

社会体育施設については、運動公園や武道館、農村センター等、建設後老朽化や構造上改修の必要のある施設が多くなっているため、計画的な整備改修を進める。

また、運動公園の機能充実とあわせ、町民の憩いの場を確保するため、運動広場の建設に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブ活動の核となる新たな施設の整備を検討する。

1 町民文化の向上

現状と課題

平成11年7月に文化ホール・図書館複合施設が開設し、文化芸術団体、学校関係、同好会、愛好者等により、音楽をはじめ、演劇・伝統芸能等の文化活動の拠点として、また、講演会・イベント・各種大会など多目的に利用されている。

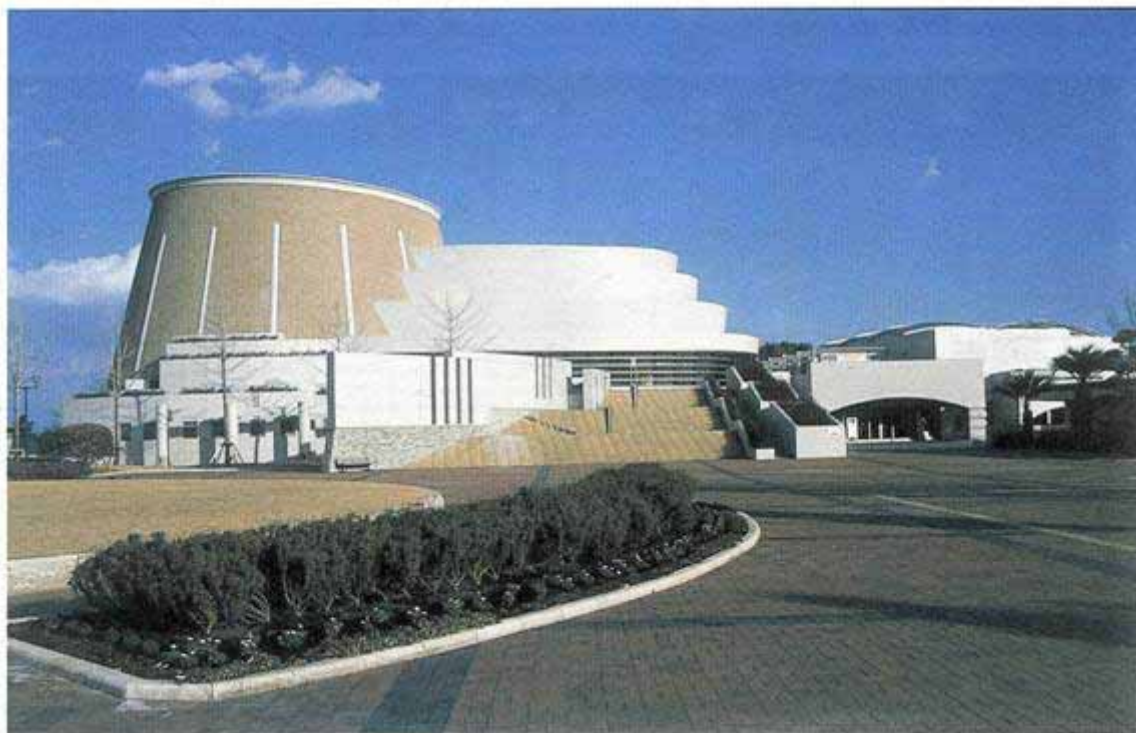
豊かな感性を育み、心の豊かさをもたらす文化活動の一層の活発化を図るため、様々な文化の交流と広域的な文化ネットワークづくり、また、時代を担う子供に芸術文化活動の場や文化を鑑賞する機会を提供することが、今後の重要な課題である。

施策の内容

町民文化の拠点である文化ホールのソフト面での機能充実を図り、自主文化事業をはじめとした文化鑑賞や文化活動の展開の場を提供する。

今後は、特に学校との連携を深めながら、時代を担う子供に文化を育む環境づくりの推進を図る。

また、地域、世代、ジャンル等を越えた文化交流を促進するとともに、文化団体等の育成と相互の連携を図り、多様なネットワークの形成、各種文化情報の発信を推進する。



2 図書館の充実

現状と課題

高度な科学技術の発達と情報化社会が進展している。一方、心の豊かさが求められる時代になっている。また、高齢化社会の進行と余暇の増大は、生涯学習社会を形成している。

本町においては、町立図書館を平成11年7月15日に開館させ、町民に学習と調査・憩いの場を提供している。町民一人ひとりのニーズは、多様化・高度化・個性化しており、当初目標の図書館資料の55,000冊体制の整備が望まれる。

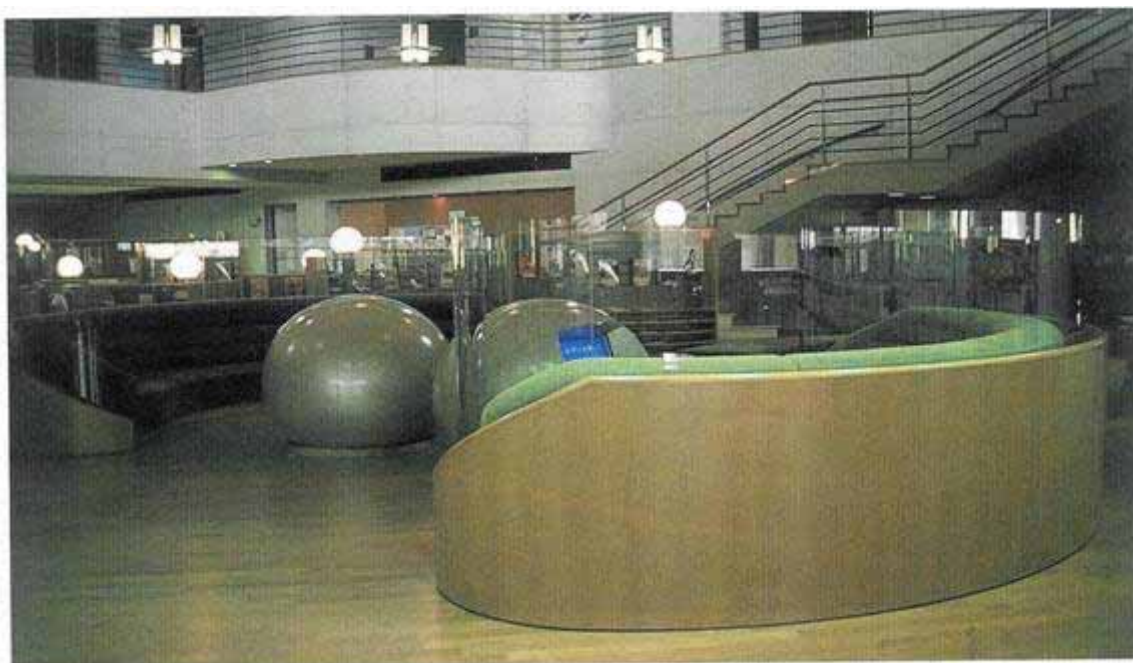
さらに各種の文化事業の実施や図書館利用者の教育も課題となっている。

施策の内容

町民に「親しまれる期待される図書館」を目指し、多様化・高度化・個性化した学習・情報獲得のニーズや広範な趣味・娯楽の追及に対応するため、広い範囲にわたる資料の収集と利用促進を図っていく。

また、町民がいろいろと学習できる図書館として、各種の文化事業を企画実施し、生涯学習の充実及び文化活動の振興を図っていく。

さらに、図書館サービスに関する町民の要求・地域的条件の調査と分析結果を図書館運営に生かしていく。



3 文化財の保護

現状と課題

国指定天然記念物川南湿原植物群落については、国、県の指導を受けながら、今日までの基礎環境調査等の成果蓄積を、今後の保護対策にどのように生かすかが緊急かつ重要な課題となっている。また、川南湿原植物群落に限らず、町内に点在する湿原植物群落の保護を図る必要がある。

宗麟原供養塔・川南古墳群等の国指定史跡については、町・観光協会等を始め、国・県との連携を深め、保護・管理公開対策を講じる必要がある。

民族文化については、伝統を守りながら、必要な援助・育成を積極的に行う必要がある。

埋蔵文化財については、未だ一般的には保護の重要性が十分認識されているとは言えない状況にあるので、諸開発の当事者に対しては、文化財保護法の趣旨を十分理解してもらえよう粘り強く対処していかなければならない。

施策の内容

川南湿原植物群落については、植物群落という性格上、性急かつ拙速な保護対策の名の下に滅失の危機を招くことがあってはならないので、環境変化に留意しつつ保護対策に努める。

民俗芸能の保護育成には、記録保存や臨時的な財政援助などの必要な対策を行う。

天然記念物・民族資料・発掘調査出土品等を町民に広く公開するために、資料館等施設の整備を検討する。また、重要遺跡・史跡については、関係機関と協議しながら整備計画を立てて整備保存に努める。